

「子ども」と「地域」の未来へ



どうして地域に子ども食堂が必要なの？

現在、子どもを取り巻く環境は大きく変化しています。それに伴い、さまざまな「こしょく」の問題も懸念されています。

こしょく

- 独りで食べる「孤食」
- 親とは違うメニューを食べる「個食」
- 好物ばかり食べる「固食」
- 麺やパンばかり食べる「粉食」

また、最近は隣近所の交流が減り、地域の支え合いもなくなりつつあります。地域で暮らす子どもへの生きる力を育むには、地域全体で子どもを育むことができる「しかけ」が必要です。

地域交流の居場所と子ども食堂は違うの？

様々な地域交流型の居場所がありますが、「子ども食堂」は居場所のまん中にいつも「子ども」がいるのが特徴です。地域みなさんが「地域の子どものために」出来ることを持ち寄り、出会い、それが普段の暮らしの安全安心な地域づくりへとつながっています。また、子どもの発達に必要な多様な価値観を持った人との関わりを持つことで、生きる力をはぐくむことが出来ます。

多様な価値観をもった大人
(関わり)

地域の人
(人間力)

専門職
(見守り)

おせっかいおばさん・おじさんと専門性

子ども食堂は地域のちょっとおせっかいなおばさん、おじさんが運営しているところが特徴のひとつです。そしてその居場所は、専門性ではなく人間性でかかわるからこそ育ち合う環境が生まれます。

しかし、もう一つの特徴として、専門職がつながる大事な社会資源であるとも言えます。子ども食堂は、専門職がいる場所ではなく、専門職が来て一緒に同じ時間を共有しつつ見守りが出来る場所です。

子どもを地域で育む「しくみ」づくり
地域のまん中に子どもがいる

子ども食堂が
存在することで・・・

【子ども食堂が地域をつなげる】

🔑 子ども食堂の効果 1

- 地域住民が子どもと関わる機会となる
- 子どもに対する関心を高め、子ども・子育て家庭の現状を理解する機会になる。
- 子ども食堂からネットワークが生まれ、地域の中の顔が見える関係が出来る

地域が変わる

🔑 子ども食堂の効果 2

- 多様性を認め、受容的・共感的な地域社会づくりへ
- 地域の課題を地域で解決する“コミュニティ”の育ちの実現へ

大人
(学生)

子ども

支えられた子どもたちが
次の世代を支えていく

次世代の
子ども

未来が変わる

「地域に対象者は存在しない」という無関心や「親の責任だろう」という無理解、自己責任論を乗り越えて様々な人と関わることで共に生きる力を育む

新潟市に 子ども食堂が やってきた！

座談会



子ども食堂が新潟にできてから1年以上が過ぎました。新潟市のあちこちの子ども食堂から、美味しいごはんのにおいと楽しい笑い声がしてくるようになりました。今回は、新潟市内で少し早くスタートした「ふじみ子ども食堂」(2016年1月～)「ゆうやけこどもけやき食堂」(2016年4月～)「そらいろ子ども食堂」(2016年10月～)で集まり子ども食堂への思いを話しました。

どんな思いで子ども食堂を始めましたか？

★立松 仕事の現場で子どもの生きづらさや食の問題を目の当たりにしているメンバーが、その状況をどうにかしたいという思いがスタートでした。その頃マスコミで取り



上げられた子ども食堂を新潟に作ったら支援に繋がるのではと思い、要町の「あさやけ子ども食堂」に見学に行きました。実際の現場を見ると、私たちのモチベーションが上がりすぐにでも子ども食堂を作りたいというワクワクした気持ちで新潟に戻り、開設の準備にかかりました。

新潟で一番にオープンしたのが「ふじみ子ども食堂」なのですが、オープンまでの道のりは中々大変で、前例のないことへの不安や抵抗に対処していく事が最初の活動でした。でも、そのことが地域を巻き込んで行く事や地域の理解に繋がり、私たちの支えになっています。

★会田 「貧困=子ども食堂」ではなくて「地域のコミュニティの場合=子ども食堂」でした。最近の親たちは、サービス業、IT関係、医療・介護職などシフトで夜勤があったり、一人親で仕事を掛け持ちするような働き方をしています。ご飯の時間に親がいないので、子どもが1人でご飯を



食べていたり、お金だけ与えられて好きなものだけを買って食べることで栄養が偏ったりします。夜遅く街へ出て行き犯罪に巻き込まれたり、幼い子が火事で被害に遭ったりという事件もニュースでできますよね。そういう子どもの置かれた状況を無くすために、地域で声を掛け合い見守る場として子ども食堂を立ち上げました。

地域ではコミュニティが不足している現状があります。両親がいて、お金もあるけれど、ごはんは一人で食べている子や、苦しい家計で栄養ある食事がとれない子も居て、そんな子ども達が交じりあい楽しい時間が過ごせる居場所を作りたい、というのがきっかけでした。

★佐谷 「ふじみ子ども食堂」や「ゆうやけこどもけやき食堂」に学生ボランティアとして参加しているうちに、学生だけで子ども食堂を作りたいという熱い想いをもちました。

青陵大学と新潟県立大学の有志で話し合いを重ね、学生有志で運営されている「池袋table」「はちおうじ子ども食堂」などを見学して会議を重ねました。二つの大学で会議を持つのはスケジュール調整が大変でした。東京でガクボプレゼン審査会に出席したり新潟県共同募金会に助成金申請したりしながら、子どもと年齢に近い学生ならではの居心地の良い空間を作ろうとみんなで頑張りました。「そらいろ子ども食堂」は、広い青空からの連想で「おおきな可能性がある」「沢山の人が集まる」「元気いっぱいエネルギーが溢れる」場所にとの願いを込めてつけました。



子ども食堂をやっていく上で 大事にしていることは何ですか？

★会田 「早くして」「ダメ」を言わないこと。そして、ここでのルールは、子どもたちに考えてもらいながら一緒に作るということです。「物を大切にする」「いやなことを言わない」など一緒に考えて作りました。新潟大学の篠田塾プログラムのからだ遊びを食後に取り入れています。食と同じに運動も身体をつくるのに大事ですから。



★佐谷 学校で日々学んだことを生かし、季節に合った遊びを取り入れるようにしています。子どもたちとこいのぼりを作ったり、デコレーションクッキーを作ったりして一緒に楽しんでいます。

初めて来た人に自分の居場所として感じてもらえるように、一緒にお話をするようにしています。でも、どこまで突っ込んでお話を聞いていいのかわかりませんが、

★立松 「撮影禁止」とか「衛生に関する決まり」など基本的に押さえるところは文章にしていますが、あえて細かいルールを作らないということです。ボランティアさんも来たいときに来て、できることをして帰りたいときに帰ります。その都度起こったことに対処しながらルール化せずやっていますが、今のところ、それで不都合がないのでいいのかなと思っています。そして、ボランティアさんあつての活動なので、ボランティアさんとの関係も大切にしています。



最近の活動の中で感じることはありますか？

★佐谷 学生なので、立ち上げた先輩が卒業していきま。継続していくために、新入生などに説明会を開いたりして呼びかけています。また、月2回開催が今年度から難しくなったので、月1回の開催にしました。無理をすると続かないので思い切ってそうしました。

★立松 事務局の3人の誰かが仕事で参加できない時でも、1年以上継続して関わってくれている地域のボランティアさんに任せることができるようになりました。



また、子ども食堂の活動が認知されてきたので、施設職員や行政関係者の方が支援の必要な子どもたちに同行して来ることや多世代の参加が多くなってきているのを感じます。

★会田 地域の顔見知りにはボランティアをお願いしてスタートしたのですが、子どもたちもボランティアの顔を知っていることで安心して参加しています。学童に行っている子、塾に行っている子などいろんな場所から子どもたちが集まってきます。子どもたちもそこで関わりをもち、大人たちもここでの関わりを楽しんでいます。

今後に向けて一言

★立松 生きづらさを抱えている子たちは中々見えないけどいます。見えないからこそ子ども食堂は間口を広げ敷居を低くしておかないと思います。

★会田 子ども食堂をやりたい人は、まず動いてみてください。助けてくれる人は必ずいます。大人のそんな動きが子どもに伝わると思います。

★佐谷 子ども食堂を通して、学生も地域の中のひとりなのだと実感しました。学生が地域に受け入れられている、学んだことを実践できる場でもあり、実践することで見えてくることもありました。いい経験だと思います。

●ふじみ子ども食堂

新潟市東区藤見町1丁目18-4 藤見団地集会所
毎月2回 第2と第4木曜日 17:00～19:30 開催
(子ども100円/おとな100円/視察者300円/未就学児 無料)

●ゆうやけこどもけやき食堂

新潟市西上新米町3-4-83 喫茶けやき
毎月2回 第1木曜日、第3火曜日 16:30～20:00 開催
(子ども200円/おとな200円/視察者200円/子どもはお手伝いで無料)

●そらいろ子ども食堂

新潟市中央区白山浦2-180-3 白新コミュニティハウス
毎月1回 第1土曜日 17:00～20:00 開催
(子ども100円/おとな200円/視察者200円/未就学児 無料)

「子育て支援・子どもの体験活動に関する支援」の主な助成制度実施団体・企業

※募集時期、助成金額、内容については実施団体によって異なりますので、各ホームページにてご確認ください。

助成制度名	よみうり子育て応援団大賞
実施団体	読売新聞社
ホームページ	https://info.yomiuri.co.jp/contest/lfmd/kosodate.html
助成制度名	平成28年度キリン・子育て応援事業 公募助成
実施団体	公益財団法人 キリン福祉財団
ホームページ	http://www.kirinholdings.co.jp/foundation/h29koubo/index.html
助成制度名	未来を強くする子育てプロジェクト 子育て支援活動の表彰
実施団体	住友生命保険相互会社
ホームページ	http://www.sumitomolife.co.jp/about/csr/community/mirai_child/
助成制度名	子どもゆめ基金助成金
実施団体	(独法)国立青少年教育振興機構
ホームページ	http://yumekikin.niye.go.jp/
助成制度名	全労済地域貢献助成事業
実施団体	全国労働者共済生活協同組合連合会
ホームページ	http://www.zenrosai.coop/zenrosai/csr/joseijigyou.html
助成制度名	NPO等助成事業
実施団体	一般財団法人 新潟ろうきん福祉財団
ホームページ	http://zaidan-hukushi.or.jp/

社協 子育てサロン助成

新潟市各区にあります社会福祉協議会では、地域の各種団体(自治・町内会、民生委員児童協議会、ボランティアグループ等)が主体となって、子育て中の親の不安や社会的孤立を解消し、情報交換や交流・憩いの場(サロン)の活動に助成します。

※助成経費・・・事業

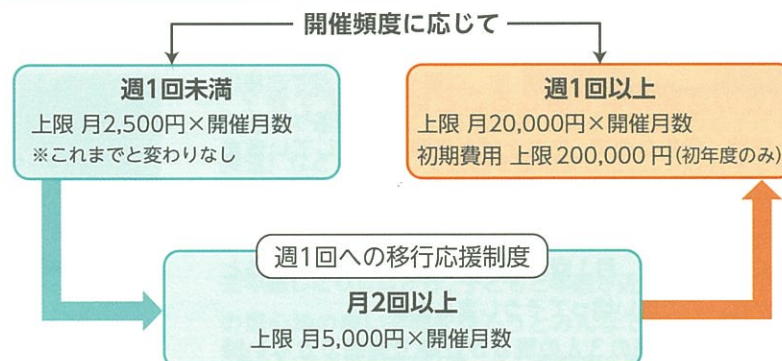
	助成金額	申請に必要な書類	条件
東区社会福祉協議会 TEL: 025-272-7721	開催月数×2,750円/回 (年度内上限33,000円)	①申請書 ②開催チラシまたは年間活動計画書	①年4回以上定期的開催 ②1回あたり参加者は5組以上 ③チラシの回覧または、広く地域の人に呼びかける。
秋葉区社会福祉協議会 TEL: 0250-24-8376	上限45,000円/年 <内訳> 3,000円(定額)+1,750円 ×実施回数(1ヶ月2回まで)	①申請書 ②年間活動計画書 ③口座振替申込書	①月1回以上の実施 ②地域の子育て中の親子5組以上参加

地域の茶の間 助成金

「地域の茶の間／ふれあいいきいきサロン」は、地域の誰もが気軽に寄り合い、孤独の解消と地域づくりを目的として、子どもからお年寄りまで、障がいの有無を問わず、誰でも気軽に参加できる場として各地で開催されています。

新潟市社会福祉協議会では、「地域の茶の間／ふれあいいきいきサロン」の運営団体に対して助成を行っています。詳しくは各区社会福祉協議会までお問合せください。

(各区社協の電話番号はP.5に記載)



※助成対象となる活動には、一定の要件があります。
詳しくは、各区社会福祉協議会までお問合せください。

“笑顔”をつなぐ
R ろうきん

新潟ろうきんは こども食堂を応援しています



新潟ろうきん ☎0120-191-880 (平日9:00～17:00) 新潟ろうきん 検索

私たちは子ども食堂を応援しています。





子ども食堂を つくろう

< 発行 >

社会福祉法人 新潟市社会福祉協議会

〒950-0909 新潟市中央区八千代1丁目3番1号

新潟市総合福祉会館内

TEL:025-243-4366 (代表) FAX:025-243-4376

【 担 当 】 こども家庭事業推進係

TEL:025-248-2214 (直通)

【 協 力 】 新潟市こども食堂ネットワーク

新潟市 (こども未来部)

【 企画協力 】 特定非営利活動法人

にいがた子育てステーション

理事長 立松 有美

【 デザイン 】 WHITE SHIPS

藤井 正子
